



TRAM SYSTEM

NEWS LETTER

Ver. 2017. 02

今月のコンテンツ

◎ Amazon Echo (アマゾン エコー)

- ・Amazon Echo とは

◎ Amazon Alexa (アマゾン アレクサ)

- ・Amazon Alexa とは

- ・次世代プラットフォームの覇者となるか



「世界 席巻」で検索すると
何故か彼がトップに...

2007年にappleから初代iPhoneが発売され、「スマートフォン」は瞬く間に世界を席巻しました。

今でも市場は拡大を続け、携帯のみならず、パソコンや業務用電話機分野はもちろん、インターネットに快適に繋がることにより医療や福祉といった他分野でもその存在感を示しています。

MicrosoftがWindowsというプラットフォームで世界を席巻したように、スマートフォンは次世代プラットフォームとして世界を席巻しました。

「Echo」、「Alexa」はスマートフォンを超えて次世代のプラットフォームの覇者となるべくその歩を確実に進めています。

◎ Amazon Echo

Amazon Echo とは



INTRODUCING
amazon echo

アメリカで2014年に発売開始されて以来、2年で500万台を突破し、Amazonのハードウェア史上、最大のヒット作となっています。iPhoneなどに搭載されるsiriのように、Echoに話しかけるだけでさまざまな操作が可能になる音声認識デバイスです。

家庭内の家電製品と繋がることでその真価を発揮します。照明と繋げて「明かりを付けて」と話しかければ照明が灯り、テレビと繋いで「8chの12:00～13:00まで録音して」や、

ラジオやミュージック、辞書機能などなど様々な活用シーンがあります。これ以外にもEchoに話しかけることで天気予報を確認したり、カレンダーの確認、ネットで検索をかけたりTo-Doリストの管理など、PCやスマートフォンで行っていた作業の多くをこなすことができるようになっているようです。

更にEchoを初めて使うユーザーにとって、最も感銘を受ける部分は応答速度の速さだとのこと。

質問を投げかけてからの回答スピードは1秒という極めて短い時間となっています。



◎ Amazon Echo

Amazon Echo とは

amazon echo
amazon.com/echo



Echoの脳にあたる部分は「Alexa」と呼ばれる、ネットワークに繋がった人工知能で、音声認識機能を持ちます。Alexaは全てのEchoと繋がっており、全てのユーザーとのやりとりから学習し、聞き取りや回答も日々レベルアップしていきます。

Amazonの5万件を超えるレビューの2/3以上が星5つの評価を出すなど、ユーザーから高評価を得ています。

では実際に使っているユーザーのコメントを少し見てみましょう。

◎7～8mほど離れて周りがガヤガヤしている状態でも正常にやりとりが出来る。

◎siriでは聞き取ってくれなかった自分の声を認識してくれる。

最初は少し間違えていたが、一カ月ほどで自分の声に慣れてくれたようだ。

◎ちょっとした調べ物や軽く気になる程度のことはあとまわしにしてたが、

Echoが来てからはすぐに簡単に回答が得られるようになったのが良い。

◎まるで映画の世界のようだ。

少し大げさな気もしますが、確かに便利そうです。

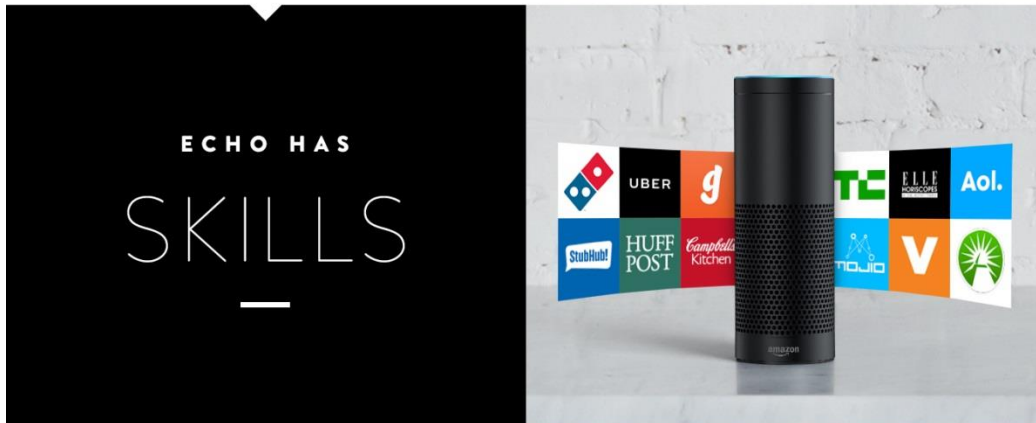
残念ながら日本語対応はまだされておらず、販売日も未定とのこと。

ただ、2016年9月にイギリス、2017年秋にドイツと販売エリアを着実に増やしていますので遠からず日本にも上陸する見込みです。



◎ Amazon Alexa

Amazon Alexa とは



EchoがAmazonのハードウェア史上最大のヒット作になったと述べました。しかし、本当の大ヒットはEchoではなくその中身である音声認識機能「Alexa」によってこれからもたらされるのであって、Alexaを武器に「スマートフォンの次」のプラットフォームをAmazonが手中に収めつつあるという指摘があります。

AmazonはAlexaを単なるEchoのアシスタント機能としてではなく、他のサービスや他社にも開放することで、あらゆる製品に活用できるプラットフォームに育てようと考えています。Alexaをサードパーティや開発者に利用してもらうために、音声認識機能を解放しました。これにより、Skill(スキル)と呼ばれるアドオンを使って開発者はAlexaにさまざまな注文を処理させることができます。例えば、ドミノピザの開発したSkillによってAlexaがピザを注文したり、UberのSkillによってAlexaが配車サービスの手配が可能になるなど、Skillの数は5000個を超えて増加の一途です。



◎ Amazon Alexa

次世代プラットフォームの覇者となるか

AmazonがAlexaで見据えている未来は、マウスやキーボードを中心とするインターフェイスを利用するPCから、タッチインターフェイスを利用するスマートフォンへと進化したように、IoT時代の「音声インターフェイス」をAlexaで実現することです。

PCというハードウェアと各種ソフトウェアをWindowsが取り仕切り、スマートフォンというハードウェアと各種アプリをAndroidが取り仕切っているように、IoT端末と各種サービスをAlexaが取り仕切るという構図です。つまり、AmazonはAlexaをスマート家電などの身の回りの生活に関する製品を取り仕切る、支配的なハブとして育てようとしているということです。



LGは自社のスマート冷蔵庫にAlexaを採用することを発表。冷蔵庫の足りない食材を自動的に発注させるような使い方が考えられます。



自動車メーカーのフォードも、いち早くAlexaの採用を決めています。

そして実際に、Alexaにハードウェアが集まり始め、Alexaを活用した新しいサービスが続々と登場しています。

2017年1月に行われた世界最大のIT・家電見本市のCES2017では、AppleやGoogleの音声認識システムを使うメーカーはごく一部で、大半はAlexaを使っていたとのこと。

参加者によると、CES2017でAlexa統合製品を発表したのは700社で、これだけの数が既存の1500製品に一気に加わるようになるそうです。

◎ Amazon Alexa

次世代プラットフォームの覇者となるか



テクノロジー産業では、※デファクトスタンダードの地位を獲得したサービスが圧倒的に優位に市場を支配するのが常で、後からその座が揺らぐことは極めて稀です。

Alexaを音声コントロールに採用する企業が多数現れている現状は、今まさにAmazonが大きな獲物を手中に収めようとしている現状だと言えるかもしれません。

※デファクトスタンダード

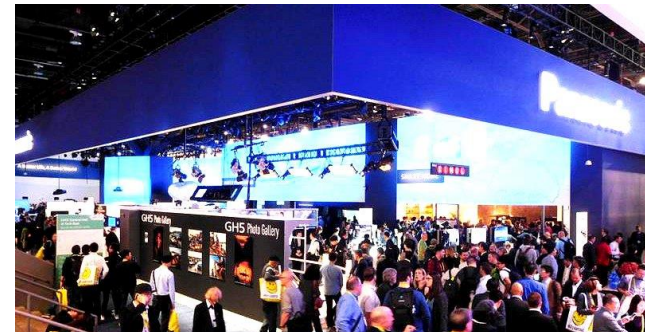
「結果として事実上標準化した基準」を指します。
イーサネット、MicroSoft Officeなどが代表的です。

Cerevoの岩佐氏は自身のブログで「家電から車まで、何もかもがAmazon Alexaに蹂躪された」と表現してAlexaの勢いを語っています。

あのレベルで生音声を集められてしまうと、もう戦えるプレイヤーはGoogleくらいしか残っていない。Googleが白旗をあげたとき、Alexaの次世代プラットフォームの覇者が確定するだろう。とも。

もちろんGoogleは強大な体力を誇りますから、スマートフォンにおけるAndroid/iPhoneのような二強となる可能性はあります。

しかし、少なくとも本年のCESを見る限りではAlexaが圧勝したことに異を唱える人はいないようです。





トラムシステム コーポレートサイトが
リニューアルされました。

コーポレートサイト
<https://www.tramsystem.co.jp/>

ビジネスホンサイト
<https://www.tramsystem.jp/>



トラムシステム株式会社

〒465-0063

愛知県名古屋市名東区新宿2丁目55番地

TEL:052-701-2634

FAX:052-701-2637

Mail : info@tramsystem.jp